

平成28年度 第1回山梨県考古博物館協議会議事録

- 1 日時 平成28年8月24日(水) 午後13時30分～
- 2 場所 考古博物館(風土記の丘研修センター)
- 3 出席者(敬称略)
- (委員) 飯野奈津子、大隈清陽、大堀卓、柿島美保子、小林千澄、齋藤洋子、清水芳久、田代孝、中村京子、堀内邦満 10名
- (事務局) 萩原館長、駒井副館長、高野次長、小澤学術文化財課長、吉岡学芸課長、総務課員3名

4 会議次第

- (1) 開会
- (2) 委嘱状・任命状交付
- (3) 委員紹介
- (4) 事務局職員等紹介
- (5) 議事
- (6) その他
- (7) 閉会

5 会議に付した事案の件名

- (1) 平成27年度考古博物館事業実績について
- (2) 平成28年度考古博物館経過・予定事業について
- (3) 考古博物館利用状況について
- (4) その他

6 議事の概要

(委員)

とても興味深い企画がたくさんあり、近くに住んでいたら毎日来たいと思うような内容。小中学生を対象にチャレンジ博物館という企画が毎月行われていて、参加者はだいたい20名前後だが望ましい参加者数はどのくらいなのか。

(事務局)

小学生は危険なものもあるので、できれば親御さんと一緒に参加してほしい。スタッフの関係もあるので、だいたい20名前後の参加者数が適当。これ以上人数を増やすなら回数自体を増やすしかないが、職員の体制もあるので月に1度開催が妥当。

高校生以上のイベントの参加者数もほぼ同じくらいとなっている。教えるスタッフも2人、多い時で3人なので目が届かないことがないように定員は20名程度と考えている。

(委員)

11月20日に行われた県民の日イベントは他のイベントに比べて人数が多かったが、参加者がどんな内容だったのか教えて欲しい。

チャレンジ博物館の参加者が毎回約20名程度ということだが重複している参加者はい

るのか。

(事務局)

県民の日のイベントはスタンブラリー、プラバンのストラップ作り、土器の拓本作り、缶バッジ作りを行い、考古博物館のスタッフ総出で対応。大勢の方に楽しんでいただけたと思う。また、埋蔵文化財センターのスタッフも動員し、古墳を使ったイベントも実施。親御さんが関心のある子供が来ることが多く、リピーターになってくれるので参加者の中には重複している参加者もいる。

(委員)

古代食の試食は本来の昔からの作り方でやっているのか、それとも現代風にアレンジしてやっているか。

(事務局)

鹿肉の燻製や縄文のスープなどを作っているが食べやすいように若干アレンジをしている。鹿肉の燻製は焼き肉のたれに1時間ほど漬けて燻製にしている。保健所にも前もって届け出をしているので安心して食べてもらえると思う。

(委員)

他のイベントの時も食に関するものはやっているのか。

(事務局)

あまりやっていない。今年度縄文王国ではマテバシイ(どんぐり)を炒って食べてもらうなどメニューを少しずつ増やそうと努力をしている。

(委員)

実物に最も近いものを、試食として配れなくても良いので展示などしたら差がわかるのではないか。

(委員)

チャレンジ博物館は小中学生対象ということだが、中学生の参加状況はどうか。職場体験に来る学校はどの地域からなのか。

(事務局)

チャレンジ博物館の参加者はほとんどが小学生で、中学生の参加者は1割以下。職場体験は国中の学校が多く、郡内からはあまり来たことがない。

(委員)

職場体験の募集は各学校に声をかけているのか。

(事務局)

ホームページにて募集をしている。

(委員)

中学生が職場体験をする時、交通機関はどうしているのか。

(事務局)

バスを使って来られる生徒はバスだが、ほとんどが親御さんの送り迎え。

(委員)

古代衣装貸し出しはただ学校に貸し出すのではなく、古代衣装を身に付けて考古博物館内のその時代を感じられるような展示の場所で写真を撮れるようなイベントはあるのか。

(事務局)

ホームページに貸し出しの申込みフォームがあり基本的には学校への貸し出しという形だが、もし来館して衣装を着てみたいという申し出があればご希望に添うようにしたい。

今までもイベントの際に職員が着たり、希望者がいれば着てもらい写真を撮るということはしていた。考古博物館の中で常時衣装の貸し出しを、というのは今まで考えたことがなかったので可能かどうかは検討させていただきたい。

(委員)

10月30日の縄文フェスに関して、山梨県が縄文王国と知られていないことも多い。イベントの具体的な内容とPR方法について教えてほしい。
特別展及び企画展の決定方法について教えてほしい。

(事務局)

縄文フェスでは色々なブース(土器に実際に触る・土器作りをしている人を見る・マテバシイを炒ったものを食べる・県立博物館からの持ってきた骨を見る、など)を設けて、イベントを実施。また、ステージ上では縄文の研究者のトークショー、土笛奏者の方々による演奏、ブログで土偶などについて発信されている方達によるセッションを予定している。

各年の学芸員が得意な分野がテーマになる。年に1度秋に大きな特別展があり、館内の展示をほぼ総入れ替えという形で行うのだが、この特別展に関しては約1年半前に何をやるか決める。山梨県が縄文王国ということがあるので、2年に1回程度は「縄文」をテーマに持ってくるようにしている。5年に1回UTYとタイアップし、インカ帝国展などを行ってきた。間の4年の2年は縄文時代関係、その他は古墳時代や弥生時代関係など。学芸の得意分野などもあるので、そのようなローテーションで決めている。また、春季企画展やその他の企画展については多目的室の小さなスペースで行うものなので前年度の発掘品を中心に扱っている。遺跡から発掘された土器の復元作業の成果も見ていただいたり、戦後70年ということで戦争遺跡のものを展示したり、毎年タイムリーな話題を春と夏には展示をしている。

(委員)

マスコミの力をお借りしてアピールしてもらえれば。

(委員)

魅力的なアピールをしていただければ取材にも行くが、良さが伝わってこないのが取材にもなかなか行けない状況。北口は人が集まる時はすごく集まるので上手にお祭りをアピールしてほしい。

(事務局)

県外の学校の利用状況と今後の見込みについて。7月末日現在で県外の利用状況は合計で2800名。昨年の7月末日の数は4100名で1300名マイナス。原因としては軽井沢のバス事故以降バス料金が高騰していることがあげられ、そのため常連であった学校も費用の関係で来られないという事情があるようだ。その他にはリニア館がオープンし、県外の学校がリニア館の方に流れてしまっていることがあげられる。具体的な数字まではつかめていないが、先方と話をする中で今回はリニア館の方に、という話をよく聞く状況。よって今年度も県外の数字が伸び悩んでしまう可能性がある。

(委員)

小中高各学校地域の教育力を借りながら、地域に根ざす教育を進めていく努力をしている最中だが、このように素晴らしい企画をすることにより子供達が考古学を始め、「山梨県」に非常に興味・関心を持っていくのではないかと。「わたしたちの研究室」という展示を見ても、こんなに歴史や山梨県というものを掘り下げて研究している子供達がいるのだとわかり、嬉しく思う。

埋蔵文化財センターの土器作りというのは学校の方で来てほしいと何度かお願いをしているが、毎年同じ学校には行けないという状況に。小学校では各学年PTAで「親子の活動」というものがだいたい組み込まれていて、そのような時に子供達が関心を持つようなことを出前としてやっていただけるとありがたい。

(事務局)

ノウハウを先生方に教えて、学校で先生方が自前でできるように支援することか。

(委員)

そういうことではなく、学校に出前講座の講師として来ていただいて、親子で活動をさせていただきたい。

(事務局)

考古博物館の方に来ていただいた方は考古博物館が対応し、学校などに来てほしいという場合などは埋蔵文化財センターが対応しているという状況。毎年来てもらいたいのがそれが叶わないということに関しては埋蔵文化財センターに伝えてできる限り希望に添える形をとらせて頂く。講座の種類を増やしてほしいなどの要望があればどんどんおっしゃっていただきたい。

(委員)

考古博物館だけではなく縄文王国について活動を行っている他の館(県立博物館・釈迦堂遺跡博物館・ふじさんミュージアム・各資料館など)にも専門の職員がいて、地域的には学校によっては教育委員会を通じて依頼していただくとそこから職員が行ける場合もある。現に南アルプス市は熱心にやっている。参考にしてもらえればと思う。

(事務局)

埋蔵文化財センターは基本的に考古学が専門なので、考古学以外の分野で出前講座や親子活動の講師として来てほしいという場合には県立博物館などの方へ聞いていただきたい。

(委員)

展示活動というのが毎回のフォーマットになっていて、基本的に特別展・企画展、それに付随したイベントの内容の報告はあるのだが常設展がどのような状態になっているのか知っておきたい。特別展を行うと人が多く集まり入館者も増えるというのはわかるのだが、普段は常設展をやっていてそこが考古博物館の基本だと思う。常設展の改善点なども報告の中に入れていただくと今どういう状況なのかわかりやすい。館としての存在意義を考えると常設展の質を上げていくべき。効率よく広告して頂き、何年かに1度は常設展の全面リニューアルを計画の中に組み込んでいただいたりしてもらえればと思う。常設展のスタンプラリーなどとても評判が良いのでさらに宣伝に力を入れてほしい。常設展をいかにPRして利用してもらおうかも報告をお願いする。

(事務局)

博物館は常設展で勝負するのが基本と認識していて、毎年色々考えてはいるのだがなかなか目に付きにくいという課題がある。新しい出土品を飾るなどの取り組みはしており、常設展に組み込んでいけるようにしていきたい。変更点についてはその都度報告ができるように取り組みたい。

5年に1度の特別展には何万人もの方に来ていただくが、企画展などは伸び悩んでいる現状。学芸関係職員一同でアイデアを出し合いより多くの方に来てもらえるようなものにしていきたい。

- 以 上 -